

平成 2 7 年度第 1 回

札幌市環境教育基本方針推進委員会

会 議 録

日 時：平成 2 7 年 1 1 月 2 0 日（金）午後 1 時 3 0 分開会  
場 所：札幌エルプラザ公共 4 施設 2 階 会議室 1・2

## 1. 開 会

○小林会長 皆さん、きょうは、お忙しい時間帯にお出ましをいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまから、平成27年度第1回札幌市環境教育基本方針推進委員会を開催します。

まず、事務局から、委員の交代や出席状況の報告など、幾つかの連絡事項があるようですので、お願いいたします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 私は、この4月から環境教育担当係長を拝命しております北村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、資料の確認をさせていただきます。

次第、資料1「委員名簿」、資料2「環境教育関係事業について」です。そのほか、参考資料として、札幌市の環境教育のパンフレット、札幌市環境プラザ講師派遣のパンフレット、環境教育へのクリック募金寄贈教材一覧、かんきょうみらいカップ2015報告書、さっぽろこども環境コンテスト2015のチラシ、エコライフレポートという小学生低学年・高学年、中学生用の3種類をお配りしています。

過不足があれば事務局にお申しつけください。

引き続きまして、本会の委員について事務局より報告事項があります。

資料1の委員名簿です。

市民団体の分野からご就任いただいております教育開発研究会代表の池田浩一委員は、逝去されたというご連絡がありました。ここに謹んでご冥福をお祈りしたいと存じます。

なお、池田委員の在任期間は来年の3月までと残り少ないことから補充は行わず、欠員として当委員会の構成は現在の13名で進めてまいります。

また、委員の交代があります。これまで委員をお務めいただいております札幌市PTA協議会の前竹島委員の退任に伴い、後任の委員として同協議会より林浩志様をご推薦いただき、このたび委員をお願いしています。

引き続きまして、札幌市において本年4月1日付の組織変更があり、当委員会事務局はこの3月までは環境計画課が所管していましたが、環境産業推進担当課へと変わっていますので、ご報告します。これに伴い、4月から課長の田縁が当委員会の事務局を担当しています。

また、同じく、4月1日付の人事異動により教育委員会の事務局においても、新たに指導主事の小林先生が担当しておりますので、併せてご報告をいたします。

次に、委員の出席状況ですが、本日、白崎委員、坂本委員からはご欠席とのご連絡をいただいております、ご出席の委員の皆様が11名ですので、委員13名の過半数に達しており、札幌市環境教育基本方針推進委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本委員会が成立していることをご報告いたします。

本日の進行ですが、本委員会はおよそ1時間半を予定しており、その後、今春にオープンした環境プラザ内のハウスタジオが更新されていますので、そちらの視察も予定して

います。お時間がある方は、この会議の後にご参加いただければと存じます。

事務局からは以上です。

○小林会長 ありがとうございます。

では、新たに委員にご承認いただきました札幌市PTA協議会副会長の林浩志委員に簡単に自己紹介をお願いいたします。

○林委員 皆様、初めまして。

私は、今年度より札幌市PTA協議会で副会長を拝命し、前任の竹島から当委員会の委員としての活動を引き継ぎました林と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

まだわからないこともありますので、これから本委員会ですできるだけ多くを学んで有意義な活動にしたいと思っております。

○小林会長 どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、新たな委員を迎えて、平成27年度第1回の会議を進めてまいります。

まず、議事に先立ちまして、本日ご出席いただいている札幌市環境局環境都市推進部の城戸部長からご挨拶を頂戴したいと思います。

○城戸環境局環境都市推進部長 こんにちは。

ご紹介をいただきました環境都市推進部長の城戸でございます。

開会に当たりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

委員の皆様には、今夜からホワイトイルミネーションが始まりますけれども、いよいよ年末という大変お忙しいところをお集まりいただき、まことにありがとうございます。

本日も、本市の環境教育の推進に関しまして本当に忌憚のないご意見をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

少しお話をさせていただきますが、新聞報道などご承知のとおり、今月の30日から国連気候変動枠組条約第21回締約国会議、通称COP21がパリで開催される予定です。

この中では、2020年以降の地球温暖化対策に取り組むための新しい枠組みが決められ、全世界で温暖化対策に取り組む方向について協議が進展することになるだろうと思っています。

札幌市としては、既に3月にこれまで以上に市民の皆様と一体となって取り組むため、今年の温室効果ガス排出量を1990年比で25%も削減するという高い目標を設定した札幌市温暖化対策推進計画を策定しました。このことは、前回の委員会で少し詳しくご報告をさせていただいたところでした。

この計画の目標を達成していくためには、市民の皆様、特に次世代の子どもたちへの環境に対する興味や意識を高めていく、主体的に行動できる人材を育てる環境教育にこれまで以上に力を入れていく必要があります。また、より効果的に環境教育を推進することが重要であるということは、この計画書にも書かれていますし、我々もそういったスタンスでいろいろな活動を進めているところです。

次代を担う子どもたちに豊かな地球環境を引き継ぐためにも、今後も教育委員会の皆さま

んと深く連携をしてまいりまして、環境教育のさらなる推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のお力添えをお願い申し上げまして、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

今日は、どうぞよろしく願いいたします。

## 2. 議 事

○小林会長 それでは、議事に入らせていただきます。

まず、議事（1）の平成27年度環境教育関係事業の実施状況及び今後の予定についてから進めてまいります。

進行に当たり、議事を4つの柱ごとに区切って進めます。委員の皆様には実施状況と今後の予定についてセットでご意見をいただきたいと思っております。

それでは、事務局から柱ごとにご説明をお願いいたします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 環境教育関係事業についてご説明をいたします。

環境教育を進める取り組みの柱として4つあり、資料とパワーポイントを使ってご説明いたします。

当部では、札幌市環境教育基本方針に基づいて事業を進めており、法律としては、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が施行され、条例として「札幌市環境基本条例」があります。これらに基づきまして、札幌市環境基本計画や札幌市教育推進計画等があり、そのほか札幌市温暖化対策推進計画やごみプラン21、水環境計画、みどりの基本計画等とも整合性、連携をとりながら事業を進めています。

札幌市環境教育基本方針は平成19年3月に策定しており、ポイントとしては、地球環境問題への対応、子どもに重点を置くということで取り組みを進めています。

参考資料として札幌市の環境教育というパンフレットがあります。基本方針の重点化する行動として、「省エネ行動を進めます」、「ごみ減量・リサイクルを進めます」、「水とみどりを守り育てます」という三つの行動を定め、重点化する対象としては、子どもへの教育ということで進めています。

取り組みを進める4つの柱は、「人材の育成」、「情報の共有・活用」、「プログラムの作成」、「機会づくり・場づくり」です。

今回、一つ一つの事業の紹介等をしてしながらご意見をいただきたいと思っておりますが、最初に人材の育成ということから進めます。

資料2に「人材の育成」ということで幾つか事業を記載しています。

まず、教員に向けた研修です。

環境プラザの主催で教員のスキルアップのための研修を昨年度から実施しています。今年度は、学校のビオトープを題材にしています。NPO法人の当別エコロジカルコミュニティの代表の方に来ていただき、講義と実習の研修をしています。この中で特徴的なのは、普通はビオトープを使った学習では、理科の授業や総合学習の授業がまず頭に浮かびます

が、講師の方の指導で今回行ったのは、例えば、国語の授業です。ビオトープで俳句を作ります。先生の俳句ですが、「雨の粒 池のまんなか 二重丸」です。小さいビオトープの場所ですが、そちらに子どもたちを連れて行き、俳句を読ませたりするという国語の授業につなげるというおもしろい取り組みも紹介されていました。

また、画用紙を6つに区切って、上にホワイト、下にブラックと書き、英語の授業としてBlack&White探しということで、ビオトープの中で黒いものと白いものを探し、ここに子どもたちが探したものを置いていきます。そして、その説明を英語でもらうという授業の紹介もされていました。参加した先生からは、今までは理科の授業しか考えつかなかったけれども、こんな展開があるのかということで非常に好評の事業でした。

また、その他の教員に向けた研修では、教育委員会と連携して教育センターにおいて環境教育に関する研修を特別に実施しています。教育課程研修コース①から③として3回ありました。それから、初任者研修でも環境教育の基礎といった環境教育に関する専門的な研修講座を展開しています。

次に、環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣です。

こちらの詳細はパンフレットを見ていただければと思います。

環境保全アドバイザー派遣制度は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等の研修会や学習会などに専門家を派遣する事業であり、現在は14名の登録があります。

一方、環境教育リーダーの派遣制度は、主として野外で活動を展開して、植物や野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球環境、ごみ、エコライフ等の指導、解説者を派遣するものです。

環境教育リーダーの派遣は、学校や幼稚園、保育園等からの要請が多くなっており、野外に出て、実際に生き物の観察などの指導を行っております。

環境保全アドバイザー制度では、環境に配慮した遺品整理という講座があり、ごみを活かして捨てる方法や、遺品整理の会社に頼んだときにどんなふうにしてごみや資源が流れていくかを見る講座などにアドバイザーを派遣するという講座もありました。

今年度の新しい展開として、環境教育リーダーについては、近年、リーダーの高齢化に伴い委嘱するリーダーの数が減る一方、制度の利用者数は増えていました。特に、幼稚園や保育園などは参加人数が多く、4～5人のリーダーを一度に派遣する必要があることから、年度当初は21名のリーダー登録でしたが、今春、新たなリーダーを募集し、10名の環境教育リーダーの新規登録を行い、現在は31名で活動しております。

募集に当たっては、公益財団法人河川財団の認定を受けた指導者や、シェアリングネイチャー協会の認定を受けたネイチャーゲーム指導者、公益財団の認定を受けたプロジェクト・ワイルドの資格を持つ方から募集を行っております。

新任リーダーの専門分野は自然体験や河川活動が主なものとなっており、既存リーダーの専門分野一覧は環境プラザの講師派遣パンフレットに記載がありますが、平成28年度のパンフレットには10名の新任リーダーの方も併せて掲載されることとなります。

また、新任リーダーに対する研修も行っており、札幌市や学校での環境教育に関する講義のほか、ベテランのリーダーの方による環境教育リーダー活動の講義、さらに実際の子どもたちの派遣現場で実地研修をしております。

リーダーの方は、その派遣の時だけではなく、前段の準備や、子どもたちが来る前の仕込みの作業などもあります。例えば、その場で魚が採れなかったら困りますので、あらかじめ魚を採っておき、見せるということもしています。また、危険な場所などもありますので、その辺の打ち合わせをしっかりとしながら進めていくということを新任の方にも伝えたいところです。

引き続きまして、資料2の2ページ目の環境プラザにおけるリーダー育成です。

環境プラザでは平成22年からこどもエコクラブを設立して活動を行っています。

平成27年度は「かざぐるま発電研究所」として、自分で手づくりの風車を作る活動を行いました。エルプラザの屋上での風車を回す実験や自然エネルギーの会社の人に風車作りのコツを伝授してもらったり、石狩にある風車の見学も行っています。また、年に1回のエルプラザを会場にした「エルプラまつり」に出展して来場者に自分たちの活動をアピールしたり、最終回には未来の風車発電計画を発表するという講座を10回にわたって行っております。

この会議終了後のハウスタジオ視察の際に「かざぐるま発電研究所」の展示もありますので、併せてご覧いただければと思います。

また、環境プラザにおけるリーダー育成ということで、新しい取り組みとして、ジュニアエコリーダーによる活動があります。エコクラブの子どもたちの卒業時にジュニアエコリーダーという認定証の交付を行っておりますが、これまでは認定証の交付で終わっていたのですが、ジュニアエコリーダーの方にさらに活躍してもらうため、いろいろなイベントに参加してもらう活動を行っています。

今年は、水道フェスタ2015という水道記念館で行われた水道局のイベントで一所懸命解説したり、プリントを配ったり、小学校高学年、中学生になった子どもたちはいろいろな活動をして大活躍しました。

環境広場においても、今年の環境広場は来場者が非常に多く、活動した8月2日も1万人近くが来場する大入りの日で、終日、エコクラブのジュニアリーダーの方も大忙しでしたが、堂々とゲームの差配やイベントの進行をしておりました。

さらに新しい取組として、環境プラザでは学生サポーター制度を設け、環境プラザが行う事業の運営サポーターとして募集を行い、現在は4名の学生が活動しています。

活動事例としては、「夏休み自由研究応援講座」として、植物の専門家とともに街路樹の調査を行い、押し花標本作製し、街路の役割について学ぶ講座や、「環境プラザがやってきた」と題して、東区の商業施設で開催したお祭りに出展して、学生サポーターの方に活躍していただき、エコ間違い探し、発電体験等を行ったというものです。

引き続き、エネルギーに関する環境教育の推進です。昨年、一昨年の委員会でもご案内

いたしましたが、3つの学校にエネルギーの見える化設備ということで、どのくらいの消費量があるかということを実タイムでわかるモニターを設置しています。

昨年度の事業としては、設備を全部の学校につけるのは難しいので、疑似体験ができる環境教育教材を作成し、子ども一人一人が個別に操作できるように、教材の内容を環境プラザのホームページ上で公開しました。これにより、インターネットで子どもたちが環境教材を個別に操作して、エネルギーの学習が行えるようになっています。

周知方法としては、後ほど説明するエコライフレポートにもホームページの紹介をして誘導を図っています。

引き続きまして、資料2の3ページ目です。

環境に関する学習活動・研究実践校事業ということで、教育委員会からご説明があります。

○事務局（小林指導主事） 教育委員会で環境教育を担当しております小林と申します。

資料の3ページの上をご覧ください。

この事業は、人材育成の観点ということで2点あり、子どもたちに直接教育を施して子どもたちを育てていくとともに、その子どもを育てる教員の資質、能力を高めるといったことも併せて行っています。ですから、ここで行っている研究の取り組みは、学校で共有して全校にも情報発信していくということを行っています。

ただ、今年度につきましては、まだ取り組み最中です。例えば、先日の16日に北白石中学校で授業を公開していただきました。太陽光パネルの設置は、この中学校は小・中の合致校であり、同じ建物を使っています。この取り組みをきっかけに小学校のエリアにも入って、そこを通過して太陽光パネルを活用するといったところから、小・中の連携も生まれてくると考えています。

そして、もう一つ価値があるのは、指定校の一覧で分かりますように、小・中・高と系統だって校種が連なっています。なかなか全部揃うことはないのですが、今年度は、小・中・高と揃って行っていますので、先日の公開授業の中でも、それぞれの学校種の段階に応じた太陽光パネルの活用の仕方といった有効な情報交流ができました。

札幌市では、学校教育の重点の中で雪、環境、読書という三つのテーマを設けているのですが、その中に系統も示しておりまして、幼稚園も入っています。幼・小・中・高とそれぞれの段階の環境の視点で狙う姿を設定した上で推進していますので、今後もその辺りをもう少し強調していきたいと思います。これは、他の都道府県の方から大変評価されておりまして、ぜひとも、近隣の小・中学校の実践にも目を向けていただき、太陽光パネルがついている学校は結構ありますので、子どもたちがそこに接している姿を見ていただければと思います。

特に、小学校においては、理科の学習で電気の学習があります。その中で主に4年生と6年生で扱うのですが、4年生では、主にそこから発生するエネルギーの強さや、プラス、マイナスの極のことや、性質を追うことが多いのですが、6年生では、環境という視点か

ら、再生可能エネルギーというところにも目が向くような実践が行われています。

各学校に設置されている太陽光パネルは、発電量がモニタリングされるシステムになっており、子どもたちも目に捉えながら、実際に屋上に上がって太陽光パネルを見えるような柵の設置等もしていますので、これからも充実した取り組みの展開が期待されますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○小林会長 どうもありがとうございました。

教育委員会の小林指導主事から大変頼もしい進行具合が評価されているというご説明をいただきました。今までご説明をいただいた人材の育成ということについてご意見、ご質問、ないしはコメントを頂戴したいと思います。

○磯島委員 先ほどの研修に私も参加させていただいたものですから、ビオトープのお話です。

今回、「人材の育成」という点で見ますと、「今年度は…」とか、「今年度から…」と、今年から新たに改善しているものが随分目について、見直しが図られているということが十分感じられる提案だったと思います。

特に、人材の育成のポイントですが、先ほどの提案を見てもわかりますように、実施しているのが8月10日で、夏季休業日期間に幌北小学校で行われていました。先程、子どもの研修についてもたくさんの参加者があったことを伺いました。参加者をたくさん募るためにも平日ではなく長期休業日に計画することが一つのポイントなのかと思います。

そして、研修会の企画につきましては、私どもの研究団体「札幌市生活科・総合的な学習教育連盟」の研修会と抱き合わせで実施させていただきました。広く伝えるという意味で、そういった研究団体と一緒に取り組むとか、やる時期は夏休み、冬休みといったところが一つポイントになってくると思います。

そして、研修の内容も、先生方が即実践していこうという内容だったのを感じます。そういう意味で、今後もそういったところが大事になっていくと思いました。

併せて、小林指導主事から先ほど太陽光パネルの話がありました。私どもの学校にもついています。今お話ししたように、教科の学習を通して太陽光パネルに触れる機会もあります。その一方で、私どもの学校は、例えば、体育委員会とか、図書委員会などの児童委員会がある中の一つに環境委員会があります。どうしても低学年の子どもたちの触れる機会が少ないということで、5・6年生の委員の子たちが低学年に太陽光パネルの見学会を催すなどして、子どもたち自ら学んだことを下の子やほかの子たちにどのように伝えていくかを学ぶことも太陽光パネルを通しての取り組み方の一つとして本校でやっているということを併せてお伝えしたいと思いました。

○田作 田作です。

質問があります。環境に関する学習活動の実践校の部分で質問ですが、小・中・高が体系立って太陽光パネルを活用する実践校というところで大通高校が入っております。藻岩

高校は普通科高校なので何となく想像できるのですけれども、大通高校は確か単位制の定時制みたいなどころだったような記憶があるのです。星園への移行だったという記憶があるので、どのような授業をしているのか。

要は、普通科の高校とはちょっと違う学校だと思うので、取り組み方がほかの学校とは違うのかなというイメージの問題なので、ちょっと教えていただきたいと思います。

○事務局（小林指導主事） 実は、大通高校に関しては、昨年度、授業を公開していただきました。

今、委員からのお話のとおり、そういった特殊性があるのだけれども、学校教育の中で中学校まで学んできたことがあると。そういった学校だからといってスポット的に扱うということではなくて、あくまでも学習の中で扱って、高等学校なので、生活とより密着した考え方が一体どういったところで活かされているか、現実的などころも伝えていく等の扱い方がなされています。

特殊だから実践を変えるということではなくて、あくまでも中学校からの系統を考えて、だからこそ、中学校、小学校の先生にまずは見ていただきたいというところのお話をいただきまして、それに呼応する形で、今年、北白石中学校につながったと考えております。

○小林会長 道内では、実業高校、工業高校、農業高校などそれぞれが環境を意識して授業をやっています。むしろ、普通高校の場合は、観念論だけで終わってしまって行動変容になかなかつながらないので、人海戦術で大変だけれども、みずから物にさわってみることが初めて感動を伝えるようです。テレビとか情報があり過ぎるのか、でバーチャルなものには余り感動しない傾向があるようです。テレビとか情報があり過ぎるのでバーチャルなものには感動しないのです。すごく大変だけれども、こつこつしなければいけないのですね。

○成田委員 北海道ガスの成田でございます。よろしくお願いたします。

幾つかありまして、まず、先ほど城戸部長から、札幌市として今後はCO<sub>2</sub>削減に向けて推進していくというお話があったのですが、そう考えると、エネルギー分野が重要になると思います。

環境教育リーダーの一覧表を見てみますと、エコライフ分野というか、エネルギー分野を担当されるリーダーが実に少ないと思って見ていました。今後、札幌市でCO<sub>2</sub>を削減していくという方向であれば、こうした分野の教育や環境リーダーの充実が必要と考えます。今後の補充等のお考えがあるのか？ということが一つです。

もう一つは、太陽光パネルを設置して消費量モニターの見える化設備をやっているところが3校とのことですが、先ほど磯島委員から百合が原小学校のお話は聞けましたが、ほかの2校については、設置してみて具体的な成果はどういうものが出てきているのかがもしわかれば教えていただけないでしょうか。

○事務局（北村環境教育担当係長） 環境教育リーダーの関係ですけれども、パンフレットの10ページに一覧表があります。確かに弱い分野があって、例えば、このことについ

て知りたいという問い合わせがあったときに全部には対応できなかったということが実際に発生しております。

今回、非常に需要が多かったのは川の活動でしたので、応募の要件として川で活動できる方ということも付加して応募しました。需要が多いことから、現在、川での環境教育に重点を置いておりますが、今後、いろいろな分野に対応できるということが非常に重要です。今回、数年ぶりにリーダーの募集を行ったところですが、また時期を見て弱い分野を補強しながらリーダー制度を継続して行きたいと考えています。

また、学校の感触ですが、リサーチを完全にできておりません。他の学校についても、学校にお伺いするなどして、どんな活用のされ方をしているのか、これからどういう補強が必要かということも含めて調査をさせていただきたいと思っています。

○小林会長 礪島委員、学校として他の学校からの相談を受けられるのだと思うのですが、今の件についてはどうですか。

○礪島委員 本校につきましては、太陽光パネルのディスプレイが玄関前にあります。もう一つ、見える化のモニターはどこに置かれているかということ、家庭科室なのです。家庭科室にあることによって、家庭科の調理実習のときにどれだけのガスなどが使われているかをその場で見ながら学習できるという利点があると聞いております。これについても、先ほど、低学年、高学年という話をさせていただきましたが、教科で使う学年が主になっているので、どう広げていくかといったところが大事だと思っております。

○小林会長 今の例に倣って、次の学校は少しずつ進化させたのです。でも、次の3月の委員会の時に少しでも追加して報告していただければと思います。

成田委員の会社などからリーダーを出していただくわけにはいかないですか。やっぱり、エネルギー関係で、建築関係とか、冷暖房関係とか、ガス、電気関係など、子ども相手だったら手前みその話ばかりしないでしょうから、ちゃんと出していただければと思います。

ほかに、人材の部分で何かございませんでしょうか。

○三木委員 環境教育リーダーの件では、講師派遣のパンフレットに本校の例が載っているぐらいです。毎年、4年生のカリキュラムの中に入れておりまして、環境教育リーダーを使わせていただいて、効果が大変上がっています。毎年3年生では三角山に行き、4年生では川に行きという形で積み上げになっています。そこに、教員だけではなかなか専門的なことが弱い部分を、川の歩き方とか、生物の保護とか、大変親切に教えてくれます。それから、何人も来てくださるので、本当に子どもたちがいい顔をして帰ってくるということがあって、大変ありがたく思っています。

要望で言えば、環境リーダーのようないい制度があるので、ここで使う物を借りられる拠点がほしいのです。かつて、環境教育リーダーはライフジャケットを着ていて子どもたちは何も着ていないという状況もありました。最近、校長会で努力していただき、西区は貸し借りができるようになってライフジャケットが使えるようになったので、安心して川の近くに出せる状況になりました。

環境プラザとか拠点みたいなのところがあって、ここに頼めば1クラス分はそういうものがあるということでより利用できるのではないかと考えております。予算も絡むのでいろいろ大変なことは十分わかりつつ、やっぱり、こちらは安全が一番気になるのです。そういうことで対応していただけると大変ありがたいです。

それから、太陽光パネルについて、前もこの委員会にお願いしたのですが、データが玄関でしか見られないのです。毎日子どもたちは見て、それはわかるのですけれども、授業で使うなら、回線をつなげてもらって教室で映るようにすれば、日々の授業で、今日はどうなっているかということを見て、日々記録していくことができます。その辺りをできたらご配慮いただければと思っています。

○小林会長 何年か後に実現していただければと思います。お願いいたします。

ほかにどうぞ。

○小路委員 こどもエコクラブですけれども、ジュニアエコリーダーということで、たしか、前回、この委員会の中でも出ていた話が具現化してくれたということは非常にありがたいと思っていますし、価値があると思っています。

この後、ジュニアエコリーダーが他のイベントでスタッフとして活躍できる、活動できる場ができましたが、その次なのです。この子たちがエコリーダーとして育てていってほしいという願いがありますので、より深く環境について知る機会、学ぶ機会、発表する場を与えてもらえると、この子たちがどうやって環境リーダーとして育てていくかという過程が見えるような気がするのです。

ですから、この先何年か、エコリーダーがもう少し増えていったら、そういう場を用意しながら、子どもたちの活動をさらに進めていく、深めていく場を設定していただければありがたいと思って見ていました。

エコリーダーの意識が非常に大切だと思います。それプラス、この事業に対しての追跡評価ができる貴重な存在でもあると思うのです。そういった部分で、評価も含めて、この子たちがどう伸びていっているのかということを見られる場を設定していただければありがたいと思いました。

○小林会長 ありがとうございます。

今、現職の先生方は在学中に環境教育ということは特に特訓も何も受けなくて、急に環境教育をやれということになって、何をどうやったらいいか、皆さん、いろいろ苦心惨憺しておられると思うのですが、現在は教育大学でそういうことを念頭に教員の卵を育てるということをやっておられるのでしょうか。何年か前からやっておられるのですね。

○森田委員 今は環境教育グループと言いますが、10年ほど前から名称は変わりながらあるのです。ただ、今年度から教員養成のカリキュラムの改組がございまして、表だってはそういう形になっていないのですけれども、今の流れとしましては、国際理解教育とか、環境教育、食育というような、いわゆるESDと呼ばれる分野は押さえていかなければいけないということで、それをどういうふうに教科横断的にやるかは、特定の学生ではなく

て、全体的な中での位置づけということで小学校の教員を養成していますね。そういう考え方を持っております。

ただ、自分は環境教育にすごく強いと言える学生がどれだけ出るかというのは、どこも同じだと思うのです。例えば、理科の免許を持ったからすごく理科ができると本当に自信を持って言える方が何人いるか、国語の中でもこういうものが専門だとか、そうなっていく場合もありますので、学生がどういう教員に育っていくかが一つ問われるところだと思います。

今おっしゃったことからちょっと外れるのですが、うちの大学は教員養成を主眼に置いていますので、教員は10年に1回の免許更新という非常に厄介な制度があるのですが、北海道教育大学は全国で人数的に一番実施している実績を持っています。その中でプログラムが幾つか出るのでありますが、必修の部分もありますけれども、そういう中でも新しい環境教育を盛り込めるようにということで、それぞれの先生方が努力はしております。微々たるものかもしれませんが、一応、努力はしております。

○小林会長 ありがとうございます。

札幌は人口が200万人いますので、市民の協力がなければ、企業や役所の努力だけでは成果が限られています。人口が減ってくる市町村は住民が同じ行動をしていてもCO<sub>2</sub>の総発生量は減るのですけれども、札幌市は人口がほぼ一定の状態にあるので一人一人が行動を変えない限り排出総量は減らないのですね。ですから、次の世代を教育して下さる先生の人材育成はとても大事だと思います。

まだいろいろおありかと思えますけれども、次に行かせていただいでいいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○小林会長 ありがとうございます。

それでは次に、2番の「情報の共有・活用」と3番の「プログラムの作成」について、北村係長からご説明をお願いいたします。

○事務局(北村環境教育担当係長) それでは、ボリュームの関係から、「情報の共有・活用」、「プログラムの作成」を一括でご説明します。

3ページの環境プラザのホームページです。

統計資料でアクセス件数を載せてありますが、年々増えています。平成23年度の11万件が12万件になり、15万件になり、26年度は16万件ということで増えているのが実態です。環境プラザホームページのトップページに「環境プラザblog」があり、随時更新されていて、先ほどご説明したジュニアエコリーダーの活動やリーダー派遣の研修の様子について、このブログがどんどん更新されていますので、例えば、学生のサポーターがどんなことをしているかということなどが分かるようになっていきます。非常に多くの情報が掲載されていますので、そういった意味で皆さんが見ているのだと思います。

また、学校の見える化設備に関連して「エネルギーはどのくらいかな？」というページがあり、入っていくと、ゲーム感覚でどのくらいの電気を使ったらどのくらいのCO<sub>2</sub>が

発生するか、どのくらいのガスを使ったらどのくらいのCO<sub>2</sub>になるのかということが自分でデータを入れながら分かるようになっていきます。そのようなところも含めて、ホームページのアクセス件数が増えているのではという状況です。

次に、かんきょう元気新聞です。

学校に張り出す壁新聞ですが、平成21年度から発行しておりました。後ほどご説明しますが、エコライフレポートという子どもたちに全員に取り組んでもらうという事業があります。昨年度までは、節電という電気に特化して取り組んでもらった経緯がありますが、今年度からは、節電以外の水やガスも対象にして、ごみ減量も含めて情報発信を行いながら実践してもらいました。

全部の小・中学校にエコライフレポートのポスターを掲出し、環境配慮の周知を図っており、かんきょう元気新聞については、エコライフレポートと重複する部分もあり、平成28年度から統合してエコライフレポートでいこうと考えてございます。

その補完として、例えば、環境プラザの事業や副教材、ホームページ等で充実させることを計画しています。

かんきょう元気新聞は、今回は第16号として最終号になりますが、冬休み明けぐらいに発行できればと考えています。編集委員には、本日出席の江田委員や三木委員にもご協力をいただいて、編集委員会を開催しています。

なお、エコライフレポートについては、後ほどご説明します。

次に、環境教育関連施設連携事業の実施ですが、こちらも継続事業として環境プラザで行っており、「親子でまるごとサケ体験」をさけ科学館と連携して実施しました。

4ページに移ります。

環境教育の施設を関連させるサイエンスターリングという事業があります。これは、CISE（チセ）ネットワークという環境関連の施設がネットワークをつくっており、具体的なテーマに基づいて施設を回るという事業を展開しています。

環境プラザでは、この中で、ヒグマ、サケというテーマで事業に参加しています。具体的には、ヒグマのテーマでしたら、ヒグマの展示に特化して関連施設を回るという事業です。各施設でヒグマの講演会などの実施を同時並行的に行って、そこを幾つか回るとオリジナルカップがもらえるなど、いろいろな施設を周ってもらおうという取り組みを展開しています。

ヒグマ・サイエンスターリングでは、環境プラザで「ヒグマに会ったらどうする」という話題で講座を実施しました。車の上にヒグマが乗っている写真があるのですが、どういうふうにしたらヒグマと上手につき合えるのか、ということを経験プラザで行いました。

もう一つ、いきものつながりクイズラリーという事業です。こちらは、事務局は札幌市ですが、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークで展開している事業です。

動物園、博物館活動センター、環境プラザ、各公園、水族館等を回ってクイズラリーを

しようというもので、施設を回ってクイズに答えると、抽選でQ U Oカードがもらえたり、参加賞がもらえるという事業です。これも、環境プラザが参加して取り組んでおります。

引き続きまして、「プログラムの作成」です。

環境教育の副教材・教師用手引ですが、現在、編集作業を行っております。昨年度に全面的な見直しを行いましたので、今年度は、昨年からのデータの更新や、目次などに教科単元を記載して、先生達がさらに使い勝手が良くなる工夫を行うこととしています。これは、年度末に向けて編集しておりますので、次回の委員会ではご紹介できると思います。

次に、環境プラザにおける学習プログラムです。環境プラザでは、展示物を利用したいろいろな見学者向けのプログラムや出前授業等のプログラムを実施しています。

それぞれの必要に応じたプログラムの長さなど、様々に調整しながら展開しております。

例えば、アクティビティのコースでしたら1時間半の中で、最初に展示物見学、その後、例えば「エネルギーをたどれ!」「E C Oまちがいさがし」など、子どもたちが興味を持ち、学習を深めてもらうアクティビティを展開しています。

これらの事業は、環境プラザ内でも行っておりますが、出前授業として様々なイベントでこれらのプログラムを実施しています。先ほど少し紹介しましたが、人気プログラムとして「E C Oまちがいさがし」があります。例えば、ジュニアエコリーダーの方にこのイベントを任せるとことや、「鳥のくちばしビンゴ」というアクティビティもありますが、これも環境広場さっぽろでイベントとして展開しているという実績があります。

以上、(2)情報の共有・活用、と(3)プログラムの作成のご紹介をさせていただきました。

○小林会長 今のところで、コメント、ご質問、ご意見はございますか。

○田作委員 田作です。

私がコメントしたいのは、環境教育関連施設連携事業の実施の部分でございます。サイエンスターリングというのは、初めて知りましたが、いい事業だと思いました。ただ、いきものつながりクイズラリーの拠点を見せていただいたのですが、バスや公共交通で行きにくいところが結構あるのです。例えば、皆さんがご存じのように、定山溪自然の村は、じょうてつバスで行くにしてはちょっと辛いので、家族で行くとなると、恐らくは乗用車で行くと思います。

また、滝野自然学園も入っていました。私はあそこに2週間ぐらい住んでいたことがありますが、住みにくい場所で、バスがなかなか来ないのです。そういう経験上、来にくい場所であることを理解すると、そこを回ることによってCO<sub>2</sub>が増加してしまうという悪循環があります。バスなどを増やすことはなかなか難しいのですが、回ってほしいと思う部分は当然ありながらも、回りやすいモデルケースの提示を交通局と相談してできないのかと思うのです。

先ほど、夏季休暇というお話があった中で、夏休みの4週間とか3週間の中でこういうふうになれば回れるということになれば、自由研究というところではプラスに働くと思っ

たので、ご検討できないかなと思いました。

○事務局（北村環境教育担当係長） いきものつながりクイズラリーの生物多様性ネットワークは、札幌市が事務局でございますので、検討させていただきたいと思います。

○小林会長 私も、北大で学生の見学を企画する時、近場のどこどこを組み合わせる偏りのない目的を果たすかに苦慮しましたが、それは大事ですね。そんな模範例のようなものを作っただけであればと思います。

磯島委員、当別エコロジカルコミュニティは、廃校跡で不便なところでしたね。何れにしても、そういうことも加味してトータルにブラッシュアップをしていかなければならないと思います。

田作委員、ありがとうございます。

○宮森委員 環境プラザにおける学習プログラムの説明があったのですが、新しくできたハウススタジオをよく理解していただくためのプログラムは既にできているのか、もし出来ていなければ、これから用意する予定があるのかどうかをお伺いしたいと思います。

○事務局（北村環境教育担当係長） 今、環境プラザでプログラムを検討中ということですので。今年4月にオープンしていますが、まだいろいろと改良点等がありまして、もう少し改良を加えたいと考えているところです。それも含めて、本年度、来年度は修正をかけていきたいと思います。その中でプログラムを構築したいと考えています。

○小林会長 江田委員には、かんきょう元気新聞の編集委員をずっと務めていただいておりますが、何かコメントはございませんか。

○江田委員 かんきょう元気新聞の編集委員を2年務めさせていただいて、今回の編集で終わりになるのですが、他にも様々な情報発信源がありますので、悲しく思いますが、他の所でいろいろなことを発信して行ければと思います。

○小路委員 改めてこうやってみて、情報の共有・活用とか、プログラムは非常に多岐にわたる幅広いものができていて、札幌の子どもたちは幸せだなという気がしています。

中学校でも、C I S E ネットを使ってトランクキットがいろいろ出ていますので、車の学習とか、理科の学習に結びつけながら環境の取り組みをしているという実践もたくさん出てきていますので、非常にありがたいと思っています。

そうやって広がりを見せることと、深まりを求めることの両方が必要なのだろうと思うのです。このプログラム作成の中に、今回は平成27年度の報告なので、27年の実践に上がっていなかったということを出ていないのでしょうかけれども、札幌市環境教育プログラムの位置づけがないのです。今もネットの中で生きている札幌市環境教育プログラムの小・中、家庭の取り組みをつくったときは、非常に苦労しながら作って、できたときには我々の達成感も非常にあり、作成者の委員の環境教育へのボルテージが上がったというか、意識が上がりました。あそこにいた方々は、各教科または各学校のリーダー的な人たちなので、そこから波及する効果は非常に大きかったような気がします。でき上がったプログラムも、当時は非常に使いやすいもので、いろいろ活用されていました。

でも、できてから約10年経ちますが、もうそろそろ現場では使えないプログラムになってきています。学習指導要領の変化その他もありまして、微調整が必要なプログラムになってきています。このまま終わらせるのは非常にもったいないし、子どもたちの周りを取り囲むプログラムは充実してきて、学校の中でそれを支える、深めるプログラムも充実させていく必要があると思うのです。

そういった意味から、札幌市環境教育プログラムについてそろそろ見直しの動きをぜひともお願いしたいと思います。

○小林会長 10年前とあらゆる状況が変わっていますからね。今、小路委員が言われたように、作られる時は、意気込みも、夏休みも冬休みも返上で副読本の委員の方もトータルしたら50人くらいになりますね。それが10年経って何となくマンネリ化してしまってもまずいし、周りが変わってきて使えないものが出てきたということで、そろそろ市でもお考えですし、教育委員会でもお考えですね。

○事務局（城戸環境都市推進部長） 先ほど説明がありましたが、環境教育基本方針も来年で10年経ちますので、どこをどの様に見直すかはこれからの議論ですけれども、来年度は何らかの検討を始める必要があると考えております。多分、その過程の中で、小路委員が提案された教育プログラムについても、来年度以降の基本方針の検討に含めていくことになるのだらうと思います。

○小林会長 部長がやりましょうと言ってくれました。地球温暖化が進み、気候変動は相当過激化しております。最終的には、極端な気象現象ということで、生物多様性が一番の弱点で影響を受けると思うので、相当本腰を入れてやらなければいけないと思います。先ほどの水の問題は、北海道は夏場しかやれないのですけれども、エネルギー問題は年中大事なことで、その点はしっかりやらなければならないだらうと思います。

今、部長も仰ってくださいましたので、次の第2ラウンドというか、第3ラウンドの意気込みを新たに突っ込んでいかなければならないと思います。

○太田副部会長 私は現物を知らないのですがちょっとお聞きしたいのですが、かんきょう元気新聞は前に見せていただいたものかと思います。エコライフレポートというのは具体的にどのようなものですか。

○事務局（北村環境教育担当係長） 後ほどご説明させていただきます。

○太田副部会長 わかりました。

○小林会長 自己採点ですね。こういう努力をしていますということを宣言させるということです。

本日はほぼ全員にご発言いただきました。次の説明が終わったら林委員にもご発言をいただきたいと思います。

次の「機会づくり・場づくり」に入りたいと思います。説明をお願いいたします。

○事務局（北村環境教育担当係長） 引き続き、「機会づくり・場づくり」ということをご説明をします。

資料2の4ページからです。

最初は、校外学習用バスの貸し出しで、環境学習のために市内の小・中学校にバスを貸し出す事業です。ここ2、3年は夏季の観光シーズンに海外から旅行の方が非常に入ってきて、学校にまでバスを貸してもらえないという状況が続いており、手配がなかなかできず、貸し出し期間を今年度も11月から12月で実施しています。貸し出しの件数、バスの台数は表のとおりです。

この事業は、学校からの希望も多く、他の場所にも広げたいという要望もあり、札幌市としても道内連携を掲げておりますので、札幌から少し出て、学校の授業ですから余り遠くまでは足を延ばせませんが、例えば、石狩には北海道ガスのLNGの大きな基地があり、小学生用の見学プログラムが組んであり、展示物も非常に充実しておりますので、そのような施設を回ったり、また同じく石狩には大きな風車もあり、太陽光発電の非常に見ごたえのあるパネルも設置しております。そういうところも含めて範囲を少し広げて実施を検討したいと考えています。もちろん、まだ決定ではありませんが、来年に向けてそのような展開ができればと考えています。

5ページの上段に、平成26年度の見学先を載せています。工場や記念館、円山動物園だと次世代エネルギーパークもありますので、こちらにも見学に来ている状況です。

次に、環境教育へのクリック募金です。

これは、インターネットを活用したクリック募金の制度で、環境プラザのホームページに環境教育へのクリック募金というサイトがあり、企業から寄附をいただくという制度です。バナーを1回クリックしたら5円ということで、その5円分を企業からいただくという制度になっています。上限はありますが、その協賛のお金で学校に環境教材を配るというもので、かなりいろいろなバリエーションで学校からの要望、希望にできるだけ沿うように配付をしております。

手回しの発電機は非常に人気がある教材です。ガス検知管というCO<sub>2</sub>を測る教材もあります。それから、デジタルCO<sub>2</sub>・O<sub>2</sub>チェッカーという濃度を測れる機器があります。これは植物の枝に袋をかけてCO<sub>2</sub>とO<sub>2</sub>の量を測ったりするものです。現在、協力企業としましては、ホームページにあります9社から協賛金をいただき、学校に教材を配っているという事業です。

次は、環境プラザにおける学習支援等です。

環境プラザの展示物を活用して、小・中学校で出前授業を行っていて、昨年度から引き続き、学校のビオトープを利用した子どもたち向けの学習を行いました。

紹介させていただくのは、ビオトープの地図を作ろうという授業で、最初に目的や生き物の探し方などを説明します。その後は、子どもたちをビオトープに連れて行って探させるという取り組みです。これは、生き物の痕跡も見つけましょうということで、ヒントをある程度与えておいて、それを宝探しのよう探すというものです。

ビオトープは、学校でもなかなか使い道がないということも聞いていますので、このよ

うに興味を引くよう宝探しゲームの要素を取り入れた授業でした。

引き続き、かんきょうみらいカップ2015です。本年度は終了しており、報告書ができています。

7月27日に、サッカー部門ということで開催しております。出場チーム数ですが、平成27年度は32チームが出場しています。これは、フットサルの試合だけではなく、環境クイズやエコリレーも行い、それぞれが得点になるという大会です。

総合点で上位の8チームは、11月7日にコンサドーレ札幌の試合が札幌ドームであり、その前座試合に出られるという特典がありましたので、応募も非常に多い事業です。また、サッカーが上手いだけではドームの前座試合までは行けないので、環境のことについてもいろいろ勉強してもらったという取り組みでした。

この事業につきましては、サッポロビール、北ガス、コカ・コーラ等、多くの会社から企業協賛をいただいて実施しております。

各賞受賞チームは、それぞれ、サッポロビール賞、北海道新聞賞、北海道ガス賞などの賞を授与しています。

それと同時に、どんな環境配慮の取組をしたかを環境体験活動カードに書いて試合当日に持ってきてもらい、いい取り組みについてこちらから選ばせてもらい、かんきょうみらいカップ特別賞ということで授与しました。

環境クイズは、例えば、企業のパネルを使って、企業の環境取組に関する問題を出して、それに答えるというものです。

続きまして、資料2の6ページのさっぽろこども環境コンテストです。

12月5日に、ここエルプラザで開催します。これは、それぞれの学校でチームを作り、応募してもらい、環境活動の取り組みを発表してもらおうというものです。

6ページの中段に発表団体を掲載しています。今年は全部で13の団体の応募があり、こども環境コンテスト始まって以来の応募となり、大盛況になるのではと思います。

審査員には、太田副会長と、今日は来られませんが坂本委員、その他学校の先生等に入ってください、審査をいたします。

12月5日の午後12時半から開催いたしますので、お時間がある方は、お越しいただければ、熱気で盛り上がっている様子が見られると思います。

各学校の取り組みをパネル展示する環境活動の紹介コーナーや若者のまちづくり参加促進大使の「一世一代時代組」のステージイベントも併せて開催する予定です。

引き続き、6ページの下のエコライフレポートです。

先ほどご紹介をしましたが、平成19年度から小・中学校の全児童・生徒に配付して結果を出してもらおうという取り組みです。今年の夏休みは、エコライフレポート「エコリーダーになろう！！」ということで、小学校の1年生から3年生用と4年生から6年生用、それから中学生用ということで、少しずつ内容を変えて取り組んでもらいました。

このレポートの中で、小学生低学年ならごみを分けて出そうとか、小学校高学年だとも

う少し難しいごみ減量の4Rなど、中学生では生物多様性を紹介しております。

それぞれのエコライフレポートのどの項目に取り組むかということ子どもたちに印をつけてもらい、休み明けにできたかできないかを書いてもらいます。

ポスターも各学校に掲出し、このポスターの中で、その時々話題を提供したいと考えています。今年の夏でしたら生物多様性を話題としました。冬休みについては、これからウォームシェアが始まりますので、そのようなことを紹介しようと考えています。

7ページに今年の夏の取組結果を載せています。小・中学校で94%ぐらいの取り組み率で、CO<sub>2</sub>の削減量としては90万キログラムという結果が出ております。

よく取り組んだ項目としては、洗顔や歯みがきの時、水を出しっ放しにしない、ごみはきちんと分けて出すという取り組みをかなりの確率でやっていただいています。

終了後は学校にエコリーダーの認定証をお配りし、各学校での取組結果をそれぞれわかるようにしています。

さらに、全部の小・中学校が取り組んだ結果、どのぐらいのCO<sub>2</sub>の削減量になったかについても分かりやすくお知らせしています。例えば、全小学校でCO<sub>2</sub>の削減量が70万キログラムといってもびんとこないと思いますので、CO<sub>2</sub>を吸収する木の本数に置きかえると5万本で、札幌芸術の森とほぼ同じ広さに植林したことと同じです、という解説なども認定証に記載しています。

次に、7ページの中段の企業と学校等とのマッチングです。

環境プラザでアンケートを行った結果、環境教育の具体的な提案を望む声や、子どものころからリサイクルなどに関心を持ってほしい等の意見があり、また、企業としては、環境活動、CSRをやりたいけれど、どんなことをしていいか分からない、何か楽しんでできる企画がないかということがありましたので、企業の施設の紹介のほかに環境プラザの事業を盛り込んだパンフレットをつくって、企業、学校に配ろうということで検討していると聞いております。

最後に、環境プラザの展示物の更新です。

展示更新については昨年度もご説明していますが、今年の4月30日にオープンしました。見える化モニターで、テレビや照明などの電力、二酸化炭素の排出量がリアルタイムでわかるという設備を取りつけています。

オープニングイベントでは、北九条小学校のミニ児童会館の子どもたちに来ていただき、いろいろ見ていただいております。

以上で、「機会づくり・場づくり」の説明を終了させていただきます。

○小林会長 ありがとうございます。

実にいろいろなご説明をいただきました。コメント、ご質問がございましたらお願いします。

○江田委員 私がこの会議に参加させていただいてから、環境プラザの役割がとても大きくなってきているように感じます。先ほどもお話が出ていたのですが、リーダー養成など

も、前回、前々回に提案があつてから、本当に具体的に進んでいると思つて聞いていました。

ちょっと戻るのですが、環境教育関連施設連携事業ということで、環境プラザを中心として施設間の連携を進めていますと書いていますが、この後のサイエンスターリングやいきものつながりクイズラリーなど、主に環境プラザが声かけという感じで中心になられているのでしょうか。というのは、札幌市全体のまとめ役みたいな役割をだんだんと持たれているのかということと、4月にリニューアルオープンしてからの来場者数はその前と何か変化があるのかどうかを伺いたいのです。

○事務局（北村環境教育担当係長） サイエンスターリングは、事務局が北大の博物館です。いきものつながりクイズラリーは、事務局は札幌市の環境共生推進担当という生物多様性を所管しているところが担当しています。環境プラザが事務局という事業ではないのですが、そこに参加をして連携していますという紹介でした。

環境プラザの入館者については、毎月のハウススタジオの来館者は個別にはわかりませんが、環境プラザに来館している方の月ごとの人数は、昨年より増加しております。

○小林会長 展示は、ここの環境プラザと、新札幌の青少年科学館もリニューアルしました。ここは、これから皆さんに見ていただいて、ご意見をいただきたいと思つています。

今、江田委員が言われたように、札幌市から実行そのものはいろいろお願いしているのです。生物多様性については、市役所の中だけです。

○森田委員 札幌市の環境教育は本当に充実してしまつて、いろいろなイベントが盛りだくさんですから、子どもたちがどれに参加していくかということで、あれもこれもというのももちろん可能ですが、例えば、非常に詳しい実施報告書ということで、かんきょうみらいカップを見せていただきました。

1 ページ目、2 ページ目を開くと、2 ページ目の2004年からの10年間の推移ということで参加者が出ています。最後の報告書のアンケート結果の12ページにご意見を書いてくださいということで、ほとんどがいい意見なのですが、例えば、最後の12ページは、出場チームが年々少なくなっているということで、そうかなと思つて2ページを見ましたら、やっぱり波があるのです。そんなに少なくなっているものではないと思うのですけれども、もう一つの意見としては、平日ではなくて土・日にしてほしいという意見もありました。

子どもたちの参加ではありますが、できれば親子でとか、できるだけ参加者をふやすということでいうと、土・日開催が本当はベストなのだろうと思つています。今後の運営上、できるだけ参加者をふやすということでは土・日開催がいいのかと思つたり、よっぽど何かご事情があるのかと思つたり、このままの継続がいいのか、参加者などをふやすことを目的にされているのか、その辺の運営方針をお聞きできたらと思つております。

○事務局（城戸環境都市推進部長） 2014年度は27チームになっていますが、去年は土・日の開催でした。結果として、日程調整がうまくいかず、子どもたちのサッカー大

会に重なりました。どうしても最盛期の土・日だと重なることが多くなるようです。それで、今年は平日に戻したので、昨年よりは少し増えております。また、当日の運営もなかなか大変でして、参加人数も多く、マネジメントにも影響が出ているので、今年は少し絞りをかけさせていただきました。とても人気があるのですけれども、その辺は十分検討しなければならないと思っていますところでは。

○小林会長 いろいろな意見をいただいて、だんだんいいほうにやっていけばいいですね。

環境広場の場合は、ビジネス・ツアー・ビジネスならウイークデーにやったほうがいいという意見に対して、あくまでもこれは子どものための札幌市としてのイベントだということで、金・土・日にやって、今年は3万1,000人くらい来たのですね。だから、来年も8月の金・土・日である5,6,7日に開催することになっていますので、それも大いにPRしていただきたいと思います。

ほかに今のセクションで何かコメントはありますか。

○太田副部長 エコライフレポートについて説明をいただきましたが、これを元気新聞と統合するという事は、もう少し大きくするのですか。それとも、この内容を少し充実させるのですか。

○事務局（北村環境教育担当係長） 内容を充実させて、時々話題を、ポスターも含めてこちらに盛り込んでいこうと考えています。

○太田副部長 これは、夏休みと冬休みですか。

○事務局（北村環境教育担当係長） 夏休みと冬休みです。これから冬休みに向けて、冬用のポスターと取り組みのレポートを作っていきます。

○小林会長 学校の先生方も忙しいですね。

○事務局（北村環境教育担当係長） 全ての子どもに配るのは恐らく札幌市だけではないかと思っていまして、本当に学校のご協力がなければできない事業です。

○小林会長 それでは、林委員、PTAの副会長というお立場ではなくてもいいですから、きょう初めてご出席されてのご感想などをいただければと思います。

○林委員 ご指名をいただきましたので、思ったところというか、最後の機会と場づくりのところに出ていましたかんきょうみらいカップの件に関して、親の立場というか、子どもたち全体を見ていく中でというと、現在、フットサルと卓球の大会に協賛という形をとられているようです。こちらは、最近、札幌市でもよく言われていると思いますが、子どもたちの運動能力が全国に比べて少し低い位置にあるということで、PTAでもいろいろな会合に参加し、運動部活であったり、運動に関しても私自身が参加して、いろいろな方のお話を聞かせていただいております。

その中で、環境教育という中で、ほかの種目の野球やバスケットボールといったところに関して協賛していただいて、実際の運営をこの委員会なり環境プラザなりでというのは実際に難しいと思うのですが、そういったところに意識を持っていくような形で、野球であれば会場になる公園や球場のごみ拾いから始まって、こんなにごみが出るのだというこ

とを最初と最後に話をするとか、そういったことでも子どもたちの意識は少しずつ変わってくると思いますので、そういったところも含めてご検討をいただければと思います。

○小林会長 サッカーとか野球はそれぞれの地域にありますね。いろいろな場を使って、ごみのこともエネルギーのこともあらゆる機会を捉えて環境に対する意識を啓発していくことが大事ですね。

今、林委員が言われた運動能力が落ちているというのは、札幌市の除雪が良すぎて根性と体力が落ちている面もあります。それは冗談ですが、いろいろな形で、札幌市はこれから特に除雪と暖房のためにエネルギーを賢く使わないと生活していけない地域ゆえに、なおさら環境教育を重視しなければいけないと思います。

きょうは、15分ぐらい、隣の環境プラザを見ていただくことになっていますので、特になければ締めたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○小林会長 それでは、本日は熱心なご審議をまことにありがとうございました。

本日の議事はこれで全部終了しましたので、事務局に進行をお渡しいたします。

○事務局(北村環境教育担当係長) ありがとうございます。それでは、連絡事項です。

次の開催は、年度末のお忙しい時期となりますが、3月に予定していますので、後ほど日程調整等をさせていただきたいと思います。

### 3. 閉 会

○事務局(北村環境教育担当係長) それでは、これで平成27年度第1回環境教育基本方針推進委員会を終了させていただきます。

きょうは、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。

この後、環境プラザ全体も含めて、ハウススタジオのご案内をいたしますので、お時間がある方はどうぞご参加いただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

以 上